



優良賞

書道の縁

陈 斌

CHEN BIN

私は研修生として日本にやって来ました。今もう二年十か月になりました。あと二か月で中国へ帰ります。日本での研修生活をふり返ると、色々なことがありました。沢山の日本人に助けてもらいました。私にとってすごく沢山の収穫がありました。その中で一番印象が深かったのは、書道の大塚先生です。先生は背が高く、痩せていて、いつもほほえんでいる七十すぎの老人です。

日本に来て四ヶ月たったある日、私はいつものとおりに日曜日藤枝市へ買い物に行きました。スーパーの向こうに「松雲堂」という店の看板が見えました。大塚先生は表具師で、その店のご主人でもありました。店の中には書道の作品がかけてあるように見えました。私は書道のことが好きだから、思わず店に入ってしまった。あいさつのあと、先生はとてもうれしそうに「君は私の店に来た初めての中国人だし、私と趣味が同じ人だ。」と言った。それから大変喜んで自分の書道作品を紹介しました。先生は表具師としてだけでなく、書道の素養も非常に素晴らしい方です。店は小さいけれど独特の雰囲気があって、まだ少ししか日本語を話せない私でしたが、共通の趣味なので話がはずみました。ますます書道に興味を湧いてきたので、先生と毎週の日曜日の午後店で会う約束をしました。日本人にとって時間は貴重なものと思

います。それを私のためにくれたことが私にはとてもうれしく温かい感じがしました。

それから先生と書道を通じた交流が始まりました。店に行くといつもお茶とお菓子を出してください、私たちはお茶を飲みながら、色々なことを話しました。時々私が書いた字を先生は直してくださいました。そして私にいつまでも書道を捨てないように、と真剣な表情で話してくださいました。現代の中国書道について私が先生に説明してあげることもありました。書道だけでなく色々なことを日本語で話しているうちに、私の日本語は少しずつ上達していました。

ある日曜日、私は風邪をひいたので店に行くことができなくて、私は先生に電話をかけました。そうしたら夜先生は私の寮にお菓子と果物を持って来て下さいました。「君は一人で外国に暮らして、偉いねえ。薬を飲んで早く元気になってね。」私はそれを聞いて涙が自然と流れてきました。

しかし私はその後実習先が移動したので、先生と離れてしまいました。別れの日、先生は自分が彫った私の名前の印鑑を下さいました。私も「中日友好」と書いた自分の作品を贈りました。

今は時々電話で先生と話します。先生のお蔭であれからずっと書道も続けているし、日本のこともわかってきました。私は心から先生に感謝しています。日本で書道の縁で先生と出会いました。これは夢にも思わなかったことです。私の人生でずっと忘れられない思い出になりました。

- ・区 分 技能実習生
- ・国 籍 中国
- ・職 種 プラスチック成形
- ・受入れ企業 沖一化工有限会社
- ・受入れ団体 静岡県経友会事業協同組合